

# うぶすな

～ふるさとを見る・知る・探す!～



うぶすなとは「生まれた土地（故郷）」という意味の言葉です。井上通泰と柳田國男が幼いころを過ごした鈴ノ森神社のヤマモモの木を詠んだ歌も、この言葉からはじまっています。

第11号

## 松岡映丘の画業

柳田國男・松岡家記念館 石井正己

柳田國男・松岡家記念館では、令和元年から松岡映丘の画稿を検証する展示を行っています。画稿の場面を丁寧に読み解くことにより、映丘の作品がどのようなものであるかが具体的にわかってきました。

一九一六年の《室君》は六曲一双の屏風であり、初夏の雨の日にくつろぐ室の津の遊女四人を描きます。これは第一〇回文展で特選首席を得て、出世作となりました。古典の絵巻物などから離れるために、自身の考えのみで作ったといえます。

一九三七年の《矢表》も六曲一双の屏風であり、源義経を守る佐藤継信が平教経に射られる場面を描きます。これは第一回国画院展に出品し、最晩年の傑作となりました。教経は描かず、空中を矢が飛ぶ一瞬を描いたのは、意外な構図です。

前者は女性、後者は武士を題材にするように、映丘が描く対象は多彩です。自作を語った文章を読むと、細部まで周到な検証を行って描いたことが知られます。映丘は松岡家の学者肌の血筋を生かしたのです。新たな大和絵を生み出したのです。

## 令和2年度埋蔵文化財発掘調査速報展

福崎町では、毎年町内の各種開発に伴い、埋蔵文化財調査を行っています。令和2年度は、主に高岡福田地区ほ場整備事業に伴い、工事によって埋蔵文化財が影響を受けるところについて、記録のための本調査を行いました。

本展では、これらの調査結果について、写真パネルや出土した土器を用いてわかりやすく紹介します。

展示をとおして福崎町の歴史を身近に感じていただければ幸いです。

令和4年4月10日まで開催中!



(兵庫県指定重要有形文化財) 旧神崎郡役所  
福崎町立  
**神崎郡歴史民俗資料館**  
Kanzaki County Museum of History and Folklore established by Fukusaki Town



## 令和3年度の催し報告

### 企画展「築135年のあゆみ」

4/24(土)～5/30(日)

明治19年(1886)に建てられた歴史民俗資料館の建物「旧神崎郡役所」は、令和3年(2021)で築135年目を迎えました。郡役所としてはじまり、地方出先機関の事務所としての使用を経て、歴史民俗資料館となり現在まで受け継がれています。洋館風の外見に瓦を載せ、温暖地域と寒冷地域の建築様式両方を兼ね備えるなど、様々な要因を調和させたこの建物は、一時は撤去の危機にありましたが、地域の人々の保存運動により、移築・復元されることになりました。

本展では、建物の役割の変遷を追うとともに写真や資料をとおして当時の様子を振り返りました。



ずらりと並ぶ歴代の展示チラシは、「建物のみどころをきみん」ができてからの歴史を物語紹介しました。ります。

### 特別展「れきみんに眠る蔵書の世界」

10/23(土)～12/5(日)

現在、当館には2,500点以上の蔵書があります。これらの多くは福崎町内の方より寄贈を受けており、町内には大庄屋三木家蔵書や神崎郡図書館などに代表される豊かな「本文化」があったことがうかがえます。

本展では、初めてれきみんの蔵書に焦点をあて、現在につながる書物の歴史の痕跡を探りました。

展示では、明治・昭和・平成に作られた3冊の郷土史を比較することで、各時代の特徴を紹介しました。

また、大庄屋三木家住宅蔵書に関する展示も行いました。『三木家蔵書目録』によれば、同家には4,000冊を超える蔵書があったことがわかっています。『蔵書目録』をもとに当館蔵書を用いて三木家蔵書の再現も試みました。

本それ自体の在り方と内容の両面から価値ある福崎町の「本文化」を新たに発見し、紹介する展示となりました。



展示風景。和装本から洋装本に変化する歴史や、海賊版についてなど、テーマを設けて展示しました。



『学問のすすめ』の真版(左)と海賊版(右)の奥付部分。福崎の属した飾磨県においても『学問のすすめ』の海賊版が流通し、訴訟問題となりました。海賊版の奥付には、福沢諭吉の表記も慶應義塾の印もありません。

## 令和4年度の催し(予定)

### 記念館の催し

- ★ 令和4年度 松岡映丘画稿展
- ★ 第43回山桃忌
- ★ 第9回柳田國男検定

初級編/中級編/上級編

### 企画展

- ★ 第10回福崎町柳田國男ふるさと賞
- ★ 伊勢大神楽
- ★ 岩田健三郎さんの版画教室

### 歴史の催し

- ★ 令和4年度 企画展
- ★ 令和4年度 連続講座
- ★ 令和4年度 特別展

## うぶすな 第11号

令和4年3月16日発行

福崎町立柳田國男・松岡家記念館

〒679-2204

兵庫県神崎郡福崎町西田原

TEL 07990-221038・120000

### ◆ 休館日

月曜日(祝日は開館)

祝日の翌日(土・日は開館)

### ◆ 開館

午前9時～午後4時30分

(入館は午後4時まで)



福崎町立

# 柳田國男・松岡家記念館 / 柳田國男生家

Kunio Yanagita and the Matsuoka Family Memorial Museum established by Fukusaki Town



(兵庫県指定文化財)

## 令和3年度の催し報告

### 松岡映丘生誕140年記念 松岡映丘展～近代大和絵の導き手～ 令和3年10月2日(土)～11月28日(日)

令和3年(2021)は、日本画家・松岡映丘が明治14年(1881)に誕生して140年となる年です。

本名を松岡輝夫といい、井上通泰や柳田國男を輩出した松岡家兄弟8人(うち3人は早逝)の末弟として、現在の兵庫県神崎郡福崎町西田原に生まれました。

記念展では、町内外から松岡映丘作品をお借りし、記念館に収蔵された画稿(下描き)コレクションと本画作品とを見比べていただけるよう展示しました。また、わずか4歳で福崎を離れたにもかかわらず、終生続いた映丘と福崎との縁について取り上げ、140年の節目を祝いました。

#### 近代大和絵の導き手

松岡映丘は、橋本雅邦や山名貴義に師事し、東京美術学校日本画科に入学しました。最初は荒木寛畝と川端玉章のクラスに入り、2年生で寺崎広業の生徒となって、首席で卒業します。数年間の教職を経験したのち、母校で日本画科の教鞭をとりました。

大正5年(1916)、映丘は吉川靈華、結城素明、平福百穂、鍋木清方の5人で「金鈴社」を結成しました。それぞれの個性を発揮して研究の成果を発表することを目的として設立された金鈴社で、映丘はこれまでにない斬新なモチーフや、表現手法をもちいた大和絵を世に送り出し、大きな衝撃を与えました。

こうした映丘の試みは画業を志す若者たちに力を与え、門下には穴山勝堂、岩田正巳、遠藤教三、服部有恒、山口蓬春、山本丘人など、数多くの俊才が集いました。

映丘は「新興大和絵会」「国画院」などを組織して多くの門下を育て、西洋画に押されつつあった大和絵に新しい風を吹き込んだのです。



夏立つ浦



浦の島子

#### ローマ美術展覧会

昭和5年(1930)映丘は文部省から海外への出張を命じられます。ヨーロッパの人々に日本の文化を紹介するため、日本美術の展覧会を開催するにあたり、映丘の作品も出品されることになったのです。

4月26日からローマで開催された日本美術展覧会は、エスポジチオーニ宮殿のホールを改装した大規模なものでした。

映丘は「屋島の義経」「今昔物語の伊勢」などを出品し、イタリア国王より「コマンドール・クローヌ勲章」を授与されました。

その後はヨーロッパ各国を視察してから大西洋を渡り、アメリカを見物して、9月6日に日本へ帰国しました。

#### 映丘と福崎

映丘と絵画との出会いは、辻川であったと柳田國男は記しています。辻川には人力車の集まる立場があり、そこに集う人力車の背後に描かれた武者絵を鑑賞することが、幼い兄弟の楽しみだったのです。

一家が町を離れたあとも、大庄屋三木家に残された書簡からは、映丘が生涯にわたって故郷福崎との縁を持ち続けたことが分かっています。

昭和12年(1937)、映丘は城崎への療養の途中で福崎へ立ち寄ります。昭和13年に息を引き取った映丘にとって、これが最後の帰郷となりました。



最後の帰郷の際に撮られた写真。左は鈴ノ森神社、右は悟真院で撮影されました。



庭の池



平治の重盛

両作品の本画は現在、イタリアで保存されています。

#### 講演会の模様

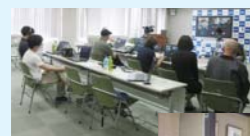


11月20日(土)には当館顧問の石井正己先生による記念講演を行いました。リモートでの講演となりましたが、多くの方にご参加いただきました。

#### 第42回山桃忌

山桃忌は、柳田國男とその兄である井上通泰の祥月にあたる8月に2人の偉業を偲んで開催している行事です。

8月1日(日)、第42回山桃忌を文化センターで開催しました。「柳田國男と『海上の道』」をテーマとして、沖縄の民俗芸能を鑑賞しました。



動画撮影の様子

また今回は初の試みとして、山桃忌をひとつの番組として動画に仕立て、8月15日からWEBでの動画配信を行いました。

#### 松岡映丘画稿展

4月3日から5月30日まで開催した画稿展では、「令和3年の干支“丑”」と題し、牛の表現に焦点を当てた展示を行いました。



天神(画稿)

#### 第8回柳田國男検定

8月1日(日)に、「第8回柳田國男検定」を実施しました。今回の受験者は計36名で、合格者は計22名でした。



#### 第9回ふるさと賞

福崎町柳田國男ふるさと賞は、福崎町内の小中学生が地域の歴史や文化を調べた作品の中から選ばれます。

本年度の福崎町柳田國男ふるさと賞は、以下の3名が受賞しました。

- ◎ 小学校低学年の部  
田原小学校 4年 西牧 宗佑さん
- ◎ 小学校高学年の部  
田原小学校 6年 田畑 駿さん
- ◎ 中学校の部  
福崎西中学校 2年 岡本 祝子さん



10月23日から12月5日まで記念館で、12月8日から26日まで図書館メディアルームで展示しました。

#### 日本民俗学会研究奨励賞

今年は、牧野由佳さん(総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻)の「知多半島『朝倉の梯子獅子』の戦後における伝承の変容～文字メディアの影響に注目して～」が受賞されました。



#### 岩田先生の版画教室

12月5日(日)に版画教室を行いました。版画家の岩田健三郎さんに、虎の張り子を例にした年賀状作りをご指導いただきました。

